

# 国語科 中学校 2年

単元名 「提案のしかたを工夫しよう -プレゼンテーション-

## 本時の流れ (第5時)

本時の目標

プレゼンテーションを行い、発表について評価し合う。

本時の目標の把握  
本時の目標を理解する。

【目標】

相手に納得してもらえるように発表し、評価し合う。

前時までの準備・練習を生かし、わかりやすく、また説得力のある発表をさせる。

相互に評価し合い、他グループの発表の工夫しているところから学ばせる。

プレゼンテーションを行い、相互評価する  
2人組グループごとに発表する。  
聞き手は相互評価用紙に記入する。

発表をするときのポイントと手順はこちら

CLICK

相互評価の観点

- 1 伝えたい内容がはっきりしていて、分かりやすい工夫がしてあるか。
- 2 根拠が明確で、説得力のある提案になっているか。
- 3 話す速度や、声量・間の取り方は適切か。
- 4 評価したポイント(記述)。

発表者には、声の出し方・表情・時間(1グループ約2分)などを意識させる。

聞き手には、メモをとりながら聞くこと、観点ごとに評価することを意識させる。

相互評価用紙はこちら

CLICK

発表の合間には評価を書き込む時間を確保し、十分な内容を書けるようにする。

評価の確認  
相互評価用紙を教室内で順送りに回し、  
自グループへの評価を確かめる。

相互評価用紙が止まらず、スムーズに回るように、声をかける。

「活用」の力を育てる評価の視点

「活用」の力を見る具体的な視点として、以下が考えられる。

- ・相手を意識して説得力のある発表をしている。 (発表の観察)
- ・内容や話し方を適切に聞き取り、自分の表現に生かしている。 (相互評価表、自己評価表)

授業の振り返り  
自他グループの発表から学んだことを整理する。

自己評価表に記入する。

感想ではなく、  
学んだことを書  
かせる。

自己評価表はこちら

CLICK

「相手を納得させるにはどう工夫すればよいか」など、聞き手を意識した発表をしているかという視点で評価する。また、他者の表現と自己の表現とを聞き比べ、学んだことを自己の表現に生かしているかという視点から評価することが、目的や意図に応じた表現の力を育てるために必要である。

単元の流れへ

HOME